

第1回 （仮称）平和資料館のあり方を考える懇話会

日 時：平成29年1月18日（水）

13：30～15：30

場 所：小倉リーセントホテル（1階）

「ガーデンホール」

次 第

1 開 会

2 市長挨拶

3 懇話会委員の紹介

4 懇話会の目的・進め方

5 座長選出

6 議題

（1）他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例

- ・ 長崎原爆資料館
- ・ 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）
- ・ 知覧特攻平和会館
- ・ 昭和館
- ・ 姫路市平和資料館

（2）北九州市の戦前の歴史

（3）（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所（案）

7 事務連絡

（1）次回日程について

8 閉 会

(仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会の目的・進め方

1 設置目的

本市では戦争の悲惨さや平和の大切さを市民に伝えるため、「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」や「北九州市非核平和都市宣言」の実施、「戦時資料展示コーナー」における戦時下の暮らしを中心とした資料の展示等、様々な取り組みを進めてきた。

戦後71年が経過し、戦争の記憶の風化が懸念されており、本市に関係する戦争の記憶を後世に伝えることが大きな課題となっている。

そのため、戦時資料の展示の充実に向けて、本市の空襲の悲惨さや長崎原爆関連を中心に展示内容を拡充し、展示の仕方も資料やパネル写真を展示させるだけでなく、映像や音響技術を駆使するなど工夫し、来館者の心に訴えるものにする予定である。

このように、展示物が従来の「戦時下の暮らし」を中心にしたものから、八幡大空襲や市内各地の空襲の資料、戦後復興の資料、長崎原爆関係の資料など大幅に増えることから、新たに平和資料館を設置することとしている。

そこで、施設のあり方や展示内容等、平和資料館の基本的な方向性について意見を聴取する「(仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会」を開催する。

2 開催期間

平成29年1月～平成29年4月(4回～5回)

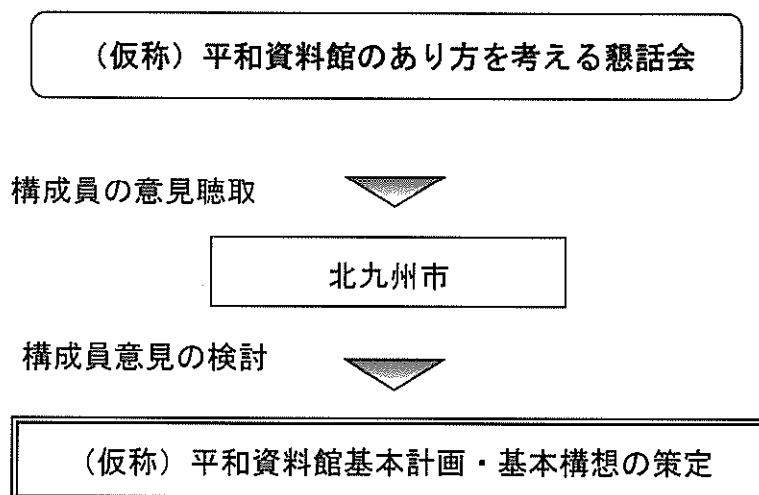
3 懇話会の進め方(意見聴取事項)

別紙のとおり

4 懇話会後の取り組み

構成員の意見を参考に、(仮称) 平和資料館の基本計画・基本構想をまとめる。

【イメージ】



(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会の進め方

1月 18日
(水)

第1回 懇話会

(議題)

- ・他館のコンセプト事例及び・コンセプトに即した機能事例
- ・北九州市の戦前の歴史
- ・(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所(案)
についての説明



2月 15日
(水)

第2回 懇話会

(議題)

- ・(仮称)平和資料館の展示コンセプト・内容等
- ・建設場所
についての意見聴取

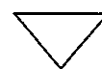


3月

第3回 懇話会

(議題)

- ・1～2回懇話会のまとめ資料
- ・(仮称)平和資料館の展示コンセプト・内容等
- ・建設場所
- ・委員意見の中間まとめ
についての意見聴取



4月～5月

第4回～5回 懇話会

(議題)

- ・委員意見の最終まとめについての意見聴取



議題（１）

他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例
（説明資料）

長崎原爆資料館

長崎原爆資料館について

(1) 沿革

原爆の惨禍から立ち上がった市民の復興への意欲と、世界恒久平和の念願を象徴するため、長崎国際文化都市建設法（昭和 24 年 8 月 9 日施行）の一事業として、昭和 30 年 2 月に長崎国際文化会館が建設され、被爆資料の展示などを行っていた。

原爆被爆 50 周年記念事業の一つとして、老朽化した同館の展示機能の充実を図る目的から、長崎国際文化会館の建て替えを行うこととし、平成 5 年 7 月に解体を始め、同年 9 月から主体工事に着手した。建替期間中は長崎市平和会館で仮展示を行った。

名称を長崎原爆資料館と改め、平成 8 年 3 月に竣工、同年 4 月に開館した。

また、平成 27 年度には、被爆 70 周年事業として、展示環境の改善及び展示内容の充実を図るため、展示室の更新整備を実施した。（更新内容については別添参照）

(2) 施設の概要

大型資料を展示するための吹き抜け空間を設けたワンフロアの展示室や、被爆体験講話や映像などによって平和について学ぶことができる原爆資料館ホール等を設けるなど、世界恒久平和を願う長崎市の平和の発信拠点施設である。

ア 所在地 長崎市平野町 7 番 8 号

イ 敷地面積 15,391.53m²

ウ 建築延面積 7,949.73m²

エ 総事業費 6,641,562,494 円

オ 構造 鉄筋コンクリート・一部鉄骨造 地下 2 階、地上 2 階

カ 各階の内容

2 階	会議室、応接室
1 階	図書室（ビデオコーナー）、事務室
地下 1 階	エントランスロビー、原爆資料館ホール、平和学習室、ビデオルーム、いこいの広場、書籍売店、喫茶室
地下 2 階	常設展示室、企画展示室、收藏室

(3) 展示の特徴

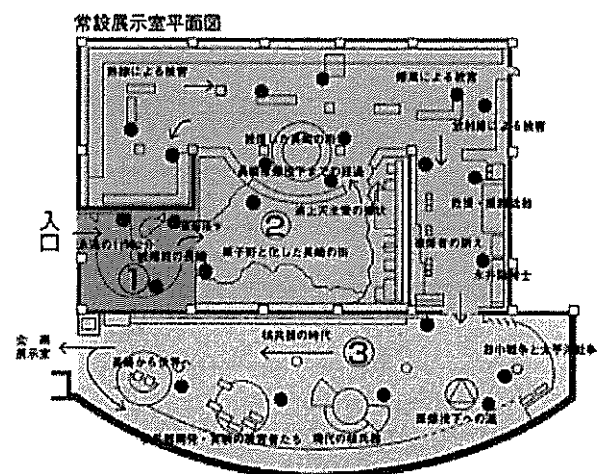
ア 被爆の惨状をはじめ原爆が投下されるに至った経過、核兵器開発の歴史、平和希求などストーリー性のある展示を行っている。

イ 大型の原爆被災資料、被爆した浦上天主堂の南側壁面一部の再現造型などにより、被爆直後の長崎の惨状を再現している。

ウ 映像資料を利用したわかりやすい解説を行っている。

エ 主要展示資料には、日本語、英語、中国語、韓国語の 4 か国語表記キャプションを設置している。モバイル端末により、11 か国語で展示解説を閲覧できる。

(4) 常設展示室観覧料金



区 分	個 人	団 体 (15 名以上)
一 般	200 円	160 円
小・中・高校生	100 円	80 円

※幼児は無料

(5) 開館時間

午前 8 時 30 分～午後 5 時 30 分（5 月～8 月は午後 6 時 30 分まで）

(6) 休 館 日

12 月 29 日～12 月 31 日

(7) 駐 車 場

ア 駐車台数 大型バス 12 台、普通車 71 台

イ 開場時間 午前 8 時～午後 6 時（5 月～8 月は午後 7 時まで）

ウ 料 金 大型バス 最初の 1 時間まで 510 円（以後 30 分毎に 510 円）
普通車 最初の 1 時間まで 100 円（以後 30 分毎に 100 円）

(8) 付属施設

ア 図 書 室

平成 11 年 11 月から貸出業務を開始した（一部の図書を除く。）。

コンピューター図書オンラインシステムにより、市立図書館、公民館やふれあいセンター等の所蔵図書が相互に検索、予約、貸出、返却可能となっている。

(7) 利用時間 午前 9 時～午後 5 時

(4) 休 日 毎週月曜日、12 月 29 日～1 月 3 日

(6) 蔵 書 数（平成 28 年 3 月 31 日現在）（単位：冊）

一般図書	児童図書	合 計
22,702	2,728	25,430

(5) 利用実績（平成 27 年度）

入室者数	貸出利用者数	貸出冊数
14,290	3,309	6,538

イ 原爆資料館ホール

(7) 収容人員 348 人（固定席 345 席＋車椅子用 3 席）

(4) 利用時間 午前 9 時～午後 10 時

(6) 休 日 12 月 29 日～1 月 3 日

(5) 付属設備 楽屋 1、通訳ブース 4、調光室 1

(6) 利用実績

（単位：件）

年 度	平和学習	講 演 会	研 修 会	そ の 他	計
23	221	30	12	39	302
24	219	30	4	39	292
25	199	20	8	41	268
26	198	14	7	46	265
27	223	19	4	62	308

ウ 平和学習室

(ア) 収容人員 A・B・C 各部屋 50 人 全体使用時 150 人

(イ) 利用実績（公益財団法人長崎平和推進協会による被爆体験講話の件数）

年 度	平和学習（件）
23	258
24	264
25	274
26	287
27	261

エ 企画展示室

常設展示と相互補完し、より具体的に、より多面的に原爆被害の実相を見て、感じて、学んでいただくため、常設展示室で展示していない資料などを期間を定めて展示したり、毎年テーマに基づいた被災資料や記録資料、絵画などの企画展示を開催している。

オ 企画展実績

年度	企 画 展 名	開 催 期 間	作品数(点)	入場者数(人)
23	「永井隆博士のまなざし」展	平成23年5月17日～平成23年7月25日	40	約 70,000
	原爆資料館収蔵資料展	平成23年7月28日～平成23年9月15日	30	約 36,000
	「8.10ナガサキ」展	平成23年10月20日～平成24年3月6日	60	約 28,000
	原爆を伝える一世代を超えて— いまも残る被爆樹木	平成24年3月28日～平成24年6月20日	50	約 56,000
24	原爆資料館収蔵資料展	平成24年7月4日～平成24年9月2日	30	約 48,000
	軍需工場での青春 —動員学徒と原爆—	平成24年9月13日～平成25年1月30日	50	約 61,000
	長崎<11:02>東松照明写真展	平成25年2月14日～平成25年6月30日	65	約 79,000
25	原爆資料館収蔵資料展	平成25年7月10日～平成25年8月28日	40	約 49,000
	「復興・長崎」被爆から6年後の旅 展	平成25年9月5日～平成26年1月30日	70	約 94,000
	生と死のはざままで 被爆者救援列車展	平成26年3月26日～平成26年6月30日	20	約 63,000
26	原爆資料館収蔵資料展	平成26年7月23日～平成26年9月28日	40	約 56,000
27	〔常設展示室機器更新のため企画展示中止〕			

(9)入館状況

(単位:人)

年 度	個 人			団 体			無料入館	合 計
	大 人	小 人	計	大 人	小 人	計		
23	187,286	29,885	217,171	69,222	273,073	342,295	95,037	654,503
24	187,658	28,815	216,473	81,796	252,318	334,114	94,263	644,850
25	215,307	30,434	245,741	78,331	248,564	326,895	94,743	667,379
26	229,019	29,646	258,665	85,087	238,696	323,783	89,473	671,921
27	275,777	34,212	309,989	92,685	241,520	334,205	99,551	743,745

(10) 原爆被災資料等の展示及び活用状況

ア 目 的

核兵器による惨事を再び人類史上に繰り返さないために、世界恒久平和の実現を訴えることは、長崎市民の使命であり責務である。このため、長崎原爆資料館に原爆被災資料を保存、展示し、被爆の実相を多くの人々に知らしめるとともに、原爆被爆の悲惨さを世界に向かって訴え、平和の輪を広げようとするものである。

イ 原爆被災資料等の展示状況

館 内 (平成 28 年 4 月現在)

(単位: 点)

被 災 物 品	絵画・模型・標本	写 真 資 料	映 像 資 料	合 計
420	279	777	80	1556

長崎原爆資料館展示室更新整備について

1 概要

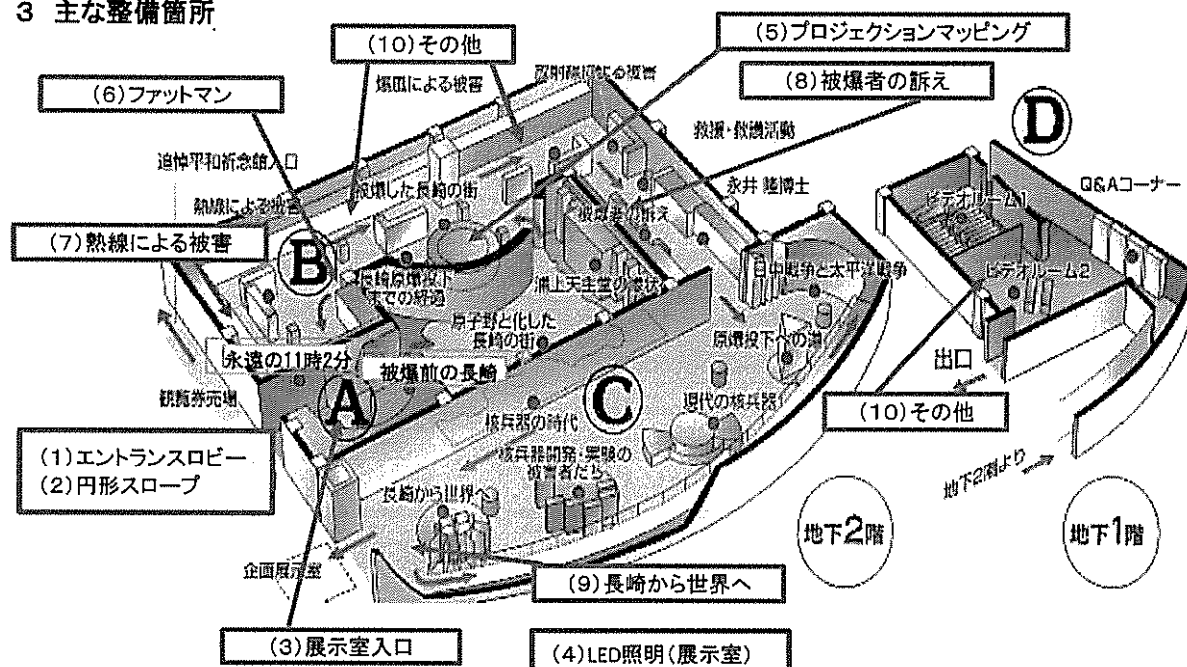
長崎原爆資料館が開館から20年を迎えるにあたり、被爆70周年事業として、最新の映像・情報機器等の導入により観覧環境を改善したほか、米国国立公文書館で収集した写真・動画資料や被爆者の絵画等を公開するなど、展示内容の充実を図った。

- ① 展示環境改善 全21展示コーナー中 19か所
- ② 展示内容充実 新規資料の展示 約600点(927点から約1,500点)

2 事業内容

- 観覧環境の改善のため、液晶モニター・デジタル映像再生機器(57台)、LED照明(282灯)を導入した。
- 展示内容の充実のため、米国国立公文書館などにおける新規収集資料(約340点)を展示するとともに、被爆者の描いた絵画、紙芝居など(約200点)を展示閲覧できる環境を整備した。
- 増加する外国人来館者のため、スマートフォン等で多言語の説明文が閲覧できるシステムを導入した。

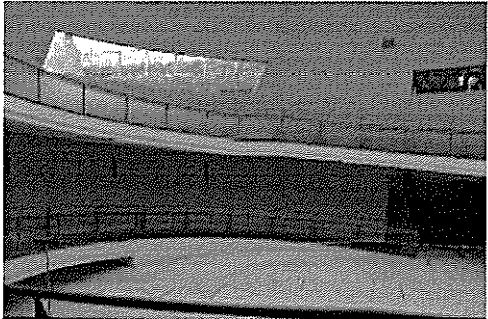
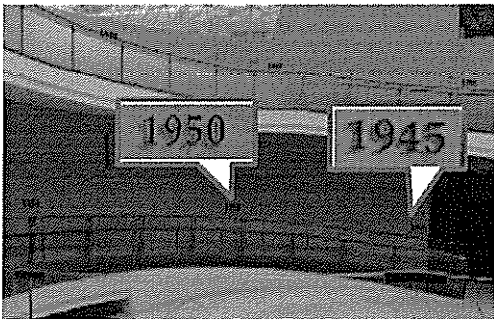
3 主な整備箇所



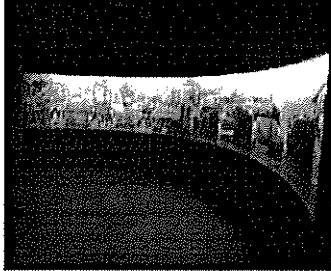
(1) エントランスロビー

整備前	整備後
整備内容	来館者がスムーズに展示室に行くことができるよう、展示室を案内する壁面及び床面サインを更新した。

(2)円形スロープ

整備前	整備後
	
整備内容	時を遡るという展示室に至るスロープのコンセプトを強化するため、壁面へ年号を表示した(2000年～1945年)。

(3)展示室入口

整備前	整備後
①  ②  ③ 	①  ②  ③ 80インチモニター  27インチモニター
整備内容	・決して忘れてはならないあの日「1945年8月9日11時2分」を強調するため、冒頭に柱時計を展示。 ・27インチモニターにデジタル化した被爆前の長崎に関する写真資料を展示。 ・原爆の凄まじさを印象付けるため、80インチの大型モニターで高解像度の原爆炸裂の映像を展開。

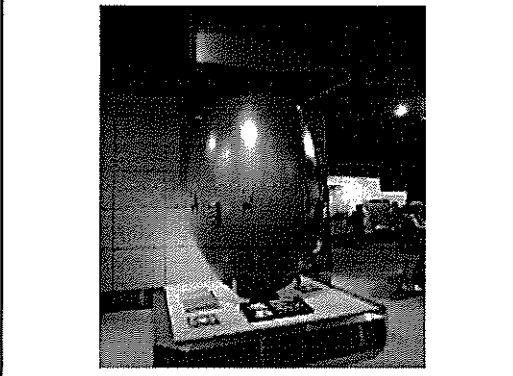
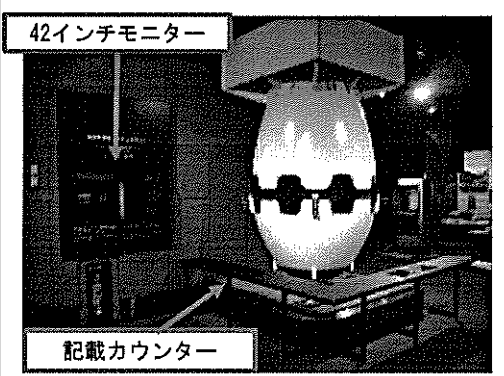
(4)LED照明(展示室)

① Bコーナー「浦上天主堂の惨状」 	② Cコーナー「核兵器の時代」 
整備内容	展示資料を保全するとともに、暗くて資料が見にくかったBコーナーの明度を一定に保つなど来館者に快適な観覧環境を提供できるよう展示室内の照明をLEDに取り替えた。

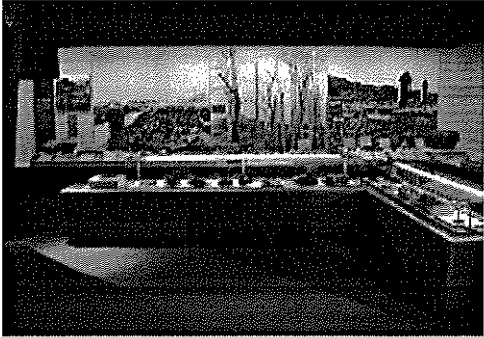
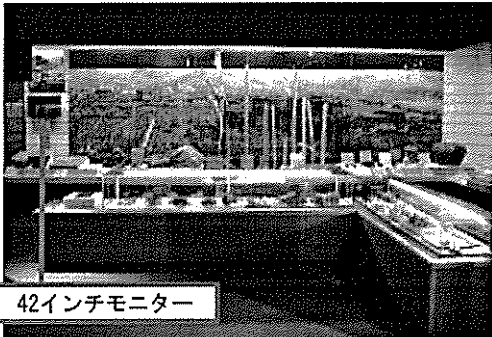
(5)プロジェクションマッピング

整備前	整備後
	
整備内容	ジオラマ(長崎の地形模型)へのプロジェクションマッピング技術を活用して、熱線、爆風、放射線による被害の地理的な広がりをカラー映像で示し、被爆の状況を分かりやすく理解できるようにした。

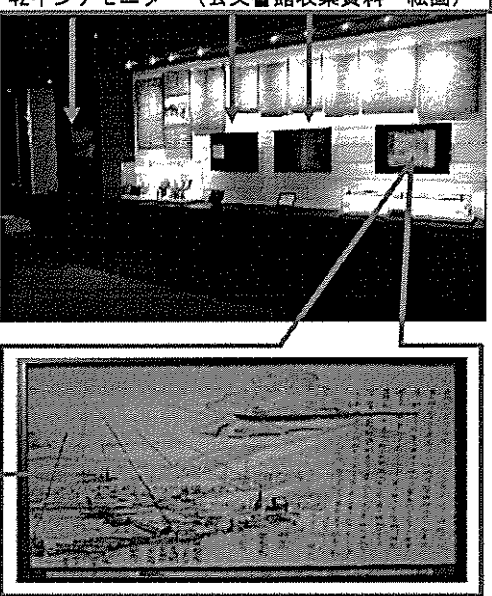
(6)ファットマン

整備前	整備後
	42インチモニター  記載カウンター
整備内容	・ファットマンの色調を現物と同じ黄色に再現するとともに、42インチモニターを設置し、原爆積込動画を展開。 ・記載カウンターを設置し、児童等の学習環境の向上を図った。

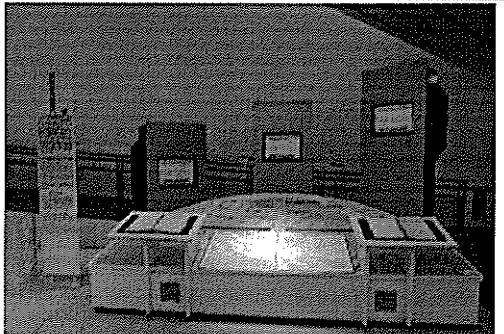
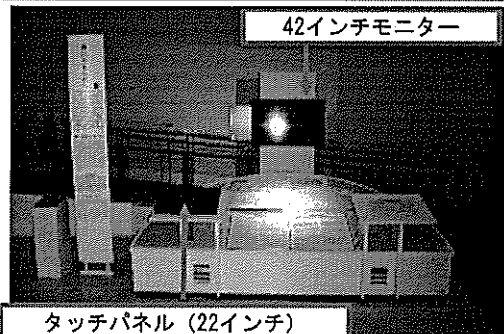
(7) 熱線による被害

整備前	整備後
	
整備内容	・被爆後の様子をパノラマ写真で展示し、被害の面的な広がりを見てもらう。 ・液晶モニターを設置し、新規資料を追加で展示できるようにした(爆風による被害、放射線による被害等も同様)。

(8) 被爆者の訴え

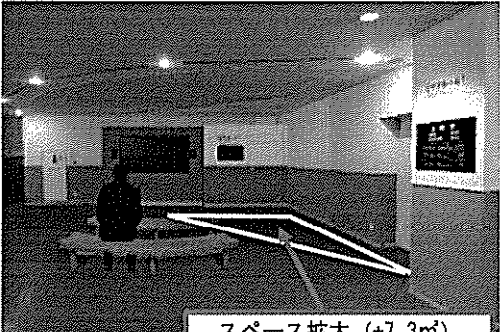
整備前	整備後
	
整備内容	・被爆者の絵画や紙芝居(約200枚)、旧日本軍の報道部画家山田栄二氏の原爆記録絵画(約30点)をデジタル化し、モニターで閲覧できるシステムを導入した。 ・長崎原爆絵巻「崎陽のあらし」(約11m)の全体像が見られるよう、タッチパネルモニターを設置した。

(9)長崎から世界へ

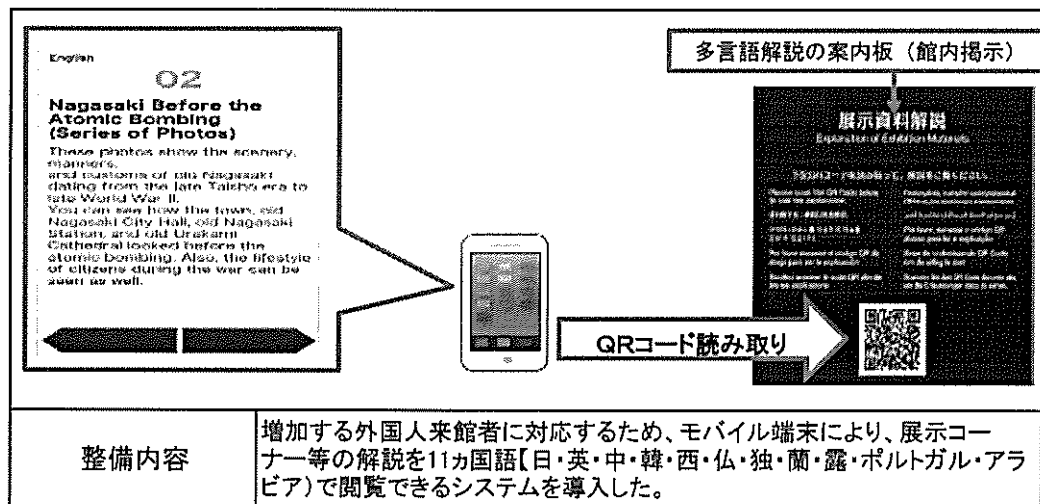
整備前	整備後
	 42インチモニター タッチパネル (22インチ)
整備内容	・42インチモニターを設置し、被爆50年から70年までの歩みについて新規映像を追加。 ・平和首長会議及び日本非核宣言自治体協議会加盟都市をタッチパネル(22インチ)で検索できるシステムを導入。

(10)その他

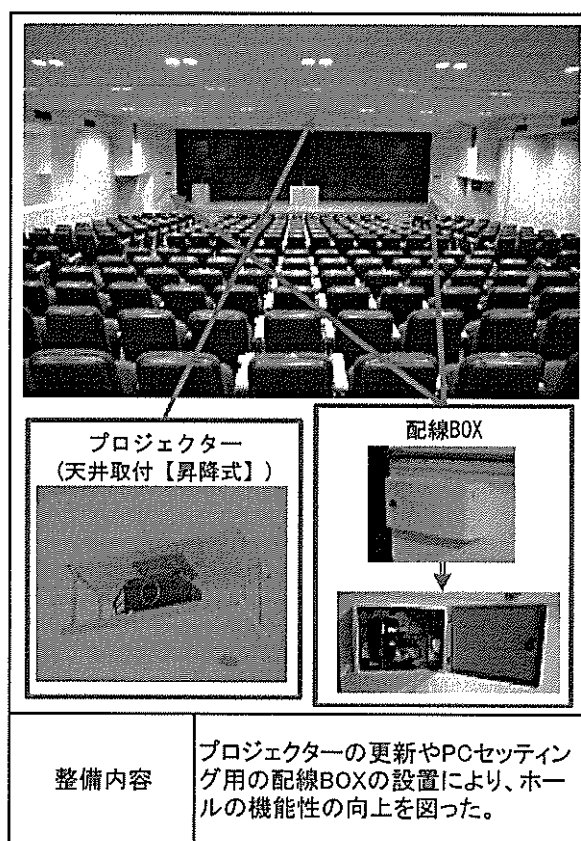
①観覧スペースの拡大(デジタル機器の導入による)

整備前	整備後
【熱線・爆風による被害】 	 スペース拡大 (+4.9㎡) ※爆風の部分は+2.7㎡
【ビデオルーム2】 	 スペース拡大 (+7.3㎡)
整備内容	液晶モニターやデジタル再生機器を導入したことによって、観覧スペースが拡大(熱線: +4.9㎡、爆風: +2.7㎡、ビデオルーム2: +7.3㎡)し、観覧環境が改善した。

②多言語解説



③原爆資料館ホール



④平和学習室





議題（１）

他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例
（説明資料）

呉市海事歴史科学館 大和ミュージアム



巨大戦艦「大和」が残したメッセージ

開館時間 9:00~18:00
 ●展示室入館は17:30まで
 ●ライブラリー 9:00~17:00

休館日
 ●火曜日が祝日の場合は翌日休館
 ●4月20日~5月5日、
 7月21日~8月15日、
 12月29日~1月3日は休館

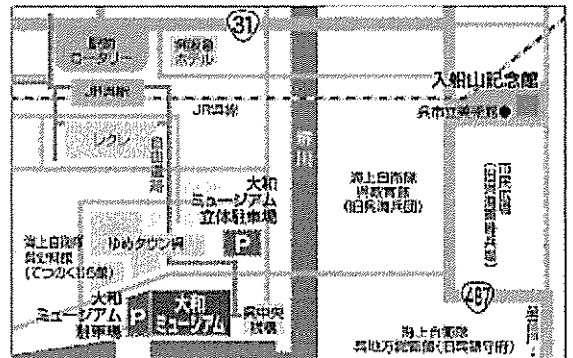
観覧料

一般	500円
高校生	300円
小中学生	200円

団体 (20名以上) 1人 400円
 高校生 200円
 小中学生 100円

歴史を未来へ

戦艦「大和」を建造した東洋一の軍港、日本一の海軍工廠のまちとして栄えた呉。戦後は、戦前から培われてきた技術が新しい技術と結びつき、世界最大のタンカーを数多く建造するなど、日本が戦後約10年ほどで世界一の造船国へ発展する一翼を担いました。その後、有数の臨海工業都市として発展し、地域の産業発展のみならず、日本の近代化に大きく貢献しました。「呉の歴史」はまさしく、明治以降の日本の近代化の歴史そのもののものです。呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」は、「呉の歴史」と、その近代化の礎となった造船・製鋼を始めとした各種の「科学技術」を、先人の努力や当時の生活・文化に触れながら紹介します。また、日本の歴史と平和の大切さを認識していただくとともに、科学技術創造立国を目指す日本の将来を担う子どもたちに科学技術のすばらしさを理解していただき、未来に夢と希望を抱いていただくことのできる「呉らしい博物館」とすることにより、地域の教育、文化及び観光等に大きく寄与することを目的とします。



- JR R / JR広島駅からJR呉線 快速約32分 JR呉駅から徒歩 約5分
- 自家用車 / 広島方面から広島呉道路(クレーライン)約20分 呉ICから約5分
 ・山陽自動車道(広島東JCT)から広島呉道-広島呉道路 約30分 呉ICから約5分
 ・山陽自動車道(高屋JCT)から東広島-呉自動車道 約40分
 ・大和ミュージアム駐車場・65台(1時間100円)
 ・大和ミュージアム立休駐車場・220台(1時間100円)
- バス / 広島バスセンターからJR呉駅前まで約46分 JR呉駅から徒歩約5分
 ・広島空港からJR呉駅前まで約60分 JR呉駅から徒歩約5分
- フェリー / 呉中央橋から徒歩 約1分



展望テラス

かつて戦艦「大和」を建造したドック跡や港湾を行き交うフェリーなどを一望できます。

4F



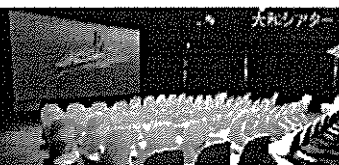
ライブラリー

船や歴史に関する資料を見ることができるほか、写真や図画、1F展示室の解説映像などをパソコンのデータベース検索により見ることができます。



C 「船をつくる技術」展示室

船を中心とした科学技術の原理を体験・体感を通してわかりやすく紹介。操船シミュレーターのほか、波の性質を学ぶ実験水槽、科学の不思議を体験するなど楽しく学べます。



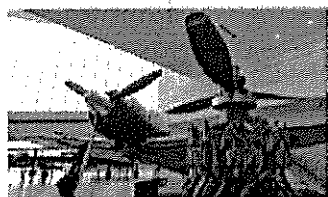
D 「未来へ」展示室

地球や宇宙に関する科学技術のこれから、名誉艦長による未来へのメッセージを紹介。大和シアターでは、戦艦「大和」に関する映像などを上映（上映プログラムは更新されます）。

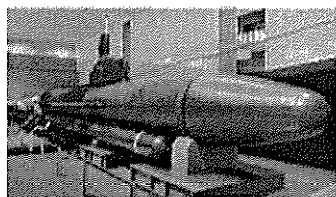
3F

B 大型資料展示室

零式艦上戦闘機や人間魚雷「回天」、九三式魚雷などの貴重な実物資料を展示しています。



零式艦上戦闘機六二型



特殊潜航艇「海龍」(後期量産型)



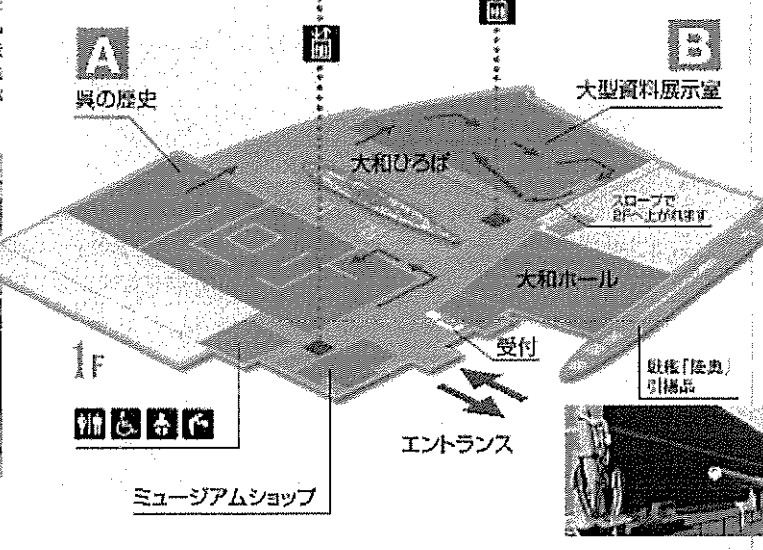
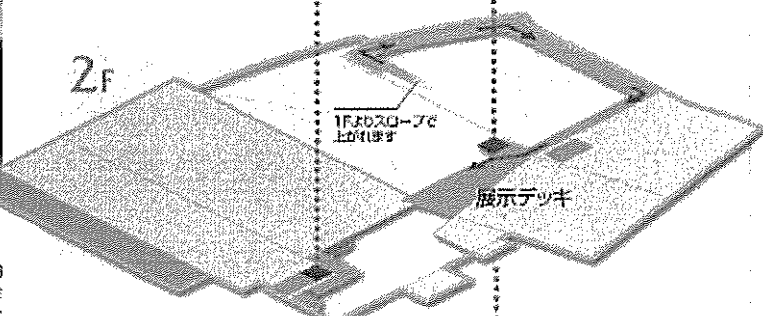
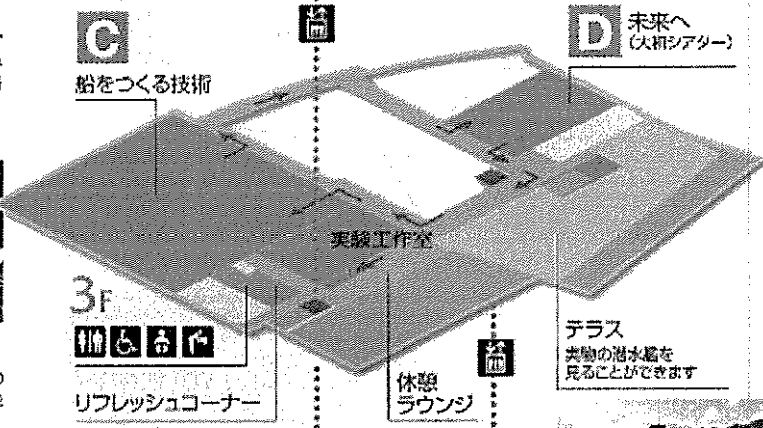
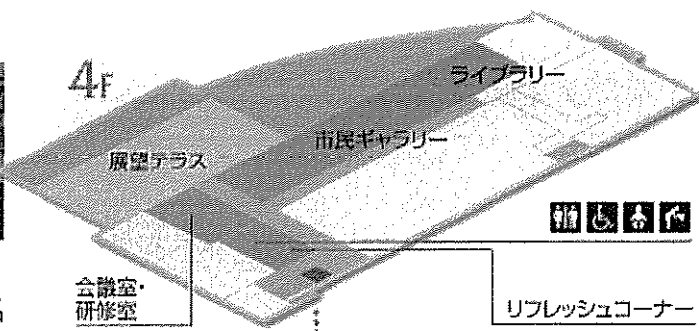
大和ひろば

全長26.3メートルもある10分の1戦艦「大和」は、設計図や写真、潜水調査水中映像などをと、可能な限り詳細に再現。大和ミュージアムのシンボルとして平和の大切さと科学技術のすばらしさを後世に語り継いでいます。



ミュージアムショップやまもと大和関連のおみやげがいっぱい

1F



入船山記念館 〒737-0028 呉市幸町4番6号 TEL 0823-21-1037 <http://www.infune-yama.com>

大和ミュージアムから徒歩10分

入船山公園内には、国指定重要文化財「旧呉鎮守府司令長官官舎」を中心に、旧呉海軍工廠時計・旧東郷家住宅離れ・郷土館・歴史民俗資料館(近世文書館)などが点在し、近代日本黎明期を感じることのできる呉の街の中でもシンボルとして欠かせない場所になっています。



旧呉鎮守府司令長官官舎



旧東郷家住宅離れ



洋館の室内(金倉蔵)

趣旨

呉市は、明治22年に呉鎮守府、明治36年には呉海軍工廠が設置され、戦前においては、戦艦「大和」を建造した東洋一の軍港、日本一の海軍工廠のまちとして栄え、また、戦後においては、戦前から培われてきた技術が新しい技術と結びつき、世界最大のタンカーを数多く建造するなど、我が国が戦後約10年ほどで世界一の造船国へ発展する一翼を担い、有数の臨海工業都市として発展し、地域の産業発展のみならず、日本の近代化に大きく貢献してきました。

呉市海事歴史科学館(愛称:大和ミュージアム)は、明治以降の日本の近代化の歴史そのものである「呉の歴史」と、その近代化の礎となった造船、製鋼を始めとした各種の「科学技術」を、先人の努力や当時の生活・文化に触れながら紹介し、我が国の歴史と平和の大切さを深く認識していただくとともに、科学技術創造立国を目指す日本の将来を担う子ども達に科学技術のすばらしさを理解していただき、未来に夢と希望を抱いていただくことのできる「呉らしい博物館」とすることにより、地域の教育、文化及び観光等に大きく寄与することを目的とします。

施設概要

所在地：広島県呉市宝町5番20号
敷地面積：17,400㎡
建築面積：4,817㎡
延べ床面積：9,628㎡
構造・規模：SRC造一部S造、RC造・地上4階建

各室：4階	ライブラリー	111.04㎡
	市民ギャラリー	471.90㎡
	会議室・研修室	114.55㎡
	学芸課事務室	59.06㎡
	資料室1・2、書庫	607.02㎡
	その他	729.34㎡
3階	「船をつくる技術」展示室	1,028.20㎡
	大和シアター	248.17㎡
	実験工作室	118.20㎡
	その他	930.02㎡
2階	展望デッキ	128.72㎡
	映写室	28.37㎡
	運営グループ事務室	113.74㎡
	その他	754.45㎡
1階	エントランス	346.80㎡
	ガイダンスルーム	50.05㎡
	大和ひろば	731.27㎡
	「呉の歴史」展示室	841.72㎡
	大型資料展示室	573.30㎡
	大和ホール(前室含む)	366.79㎡
	その他	1,275.62㎡

駐車場 大和ミュージアム駐車場
(普通車65台、思いやり駐車場2台、マイクロバス5台)
大和ミュージアム立体駐車場
(普通車220台、思いやり駐車場1台、1階にバス乗降場)



主な展示物等

展示資料：約1,500点 / 収集済み博物館資料：220,825点(平成26年3月末現在)



呉の歴史と大和ミュージアム

1889年 明治22年7月1日	呉鎮守府開庁
1902年 明治35年10月1日	呉市誕生
1937年 昭和12年11月4日	戦艦「大和」起工
1940年 昭和15年8月8日	戦艦「大和」進水
1941年 昭和16年12月8日	太平洋戦争開戦(真珠湾攻撃)
1941年 昭和16年12月16日	戦艦「大和」竣工
1945年 昭和20年4月7日	戦艦「大和」沈没
1945年 昭和20年8月15日	太平洋戦争終戦
1950年 昭和25年6月28日	旧軍港市転換法施行
1980年 昭和55～60年度	県立博物館の設置を県に要望
1990年 平成2～3年度	博物館基本構想策定
1991年 平成3～6年度	博物館資料調査収集業務
1995年 平成7年度	海事博物館設立構想策定
1996年 平成8年度	海事博物館推進室設置「収蔵展示施設」オープン
1997年 平成9年度	「呉市海事博物館(仮)基本計画」策定
1998年 平成10年度	「呉市海事博物館(仮)展示計画」策定
2000年 平成12年度	基本設計
2001年 平成13年度	実施設計
2002年 平成14年度～	建築工事
2003年 平成15年度～	展示制作
2003年 平成15年4月1日	平成の大合併①(下蒲刈町編入)
2003年 平成15年8月26日	名称と愛称を発表
2004年 平成16年4月1日	平成の大合併②(川尻町編入)
2004年 平成16年11月～	ボランティア募集開始
2005年 平成17年1月28日	「大和ミュージアム友の会」設立
2005年 平成17年3月20日	平成の大合併③(6町を編入)
2005年 平成17年3月26日	YAC「呉やまと分団」結団
2005年 平成17年4月23日	大和ミュージアム 開館
2005年 平成17年11月5日	100万人目の来館者(177日目)
2008年 平成20～23年度	指定管理者制度[第1期]
2011年 平成23年3月5日	開館5周年記念シンポジウム 「瀬戸内歴史海道構想」
2012年 平成24～28年度	指定管理者制度[第2期]
2014年 平成26年4月24日	900万人目の来館者
2015年 平成27年4月23日	開館10周年
2015年 平成27年5月24日	1000万人目の来館者
2015年 平成27年8月29日	開館10周年記念シンポジウム 「終戦70年を語り継ぐ」
2015年 平成27年9月21日	戦艦ミズーリ記念館姉妹館協定締結
2016年 平成28年5月29日	1100万人目の来館者

来館動向

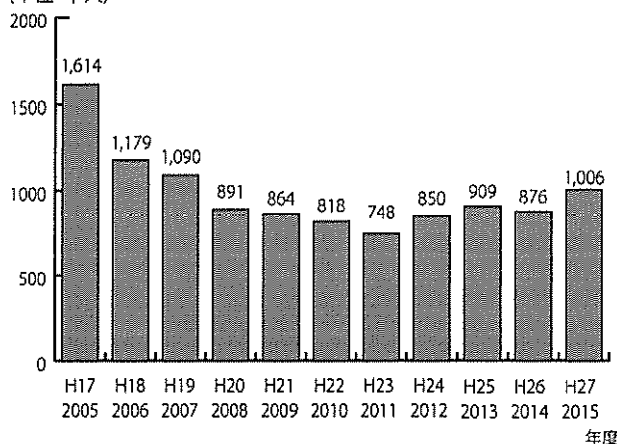
来館者数

開館以来の来館者累計

11,555,655人

(～平成28年11月末)

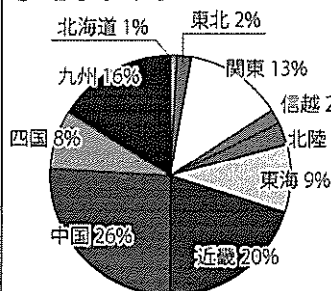
(単位:千人)



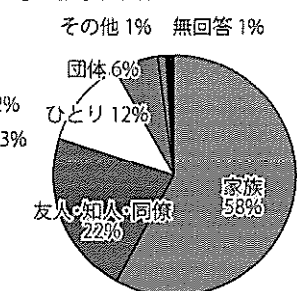
来館者分析

※来館者アンケートより

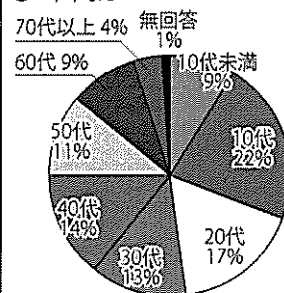
◎ どちらから?



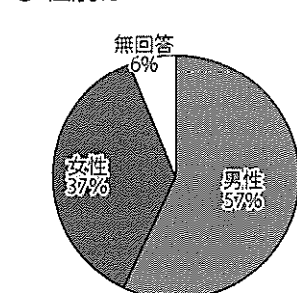
◎ どなたと?



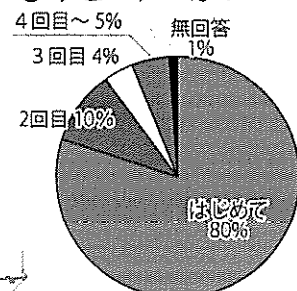
◎ 年代は?



◎ 性別は?



◎ リピーターは?



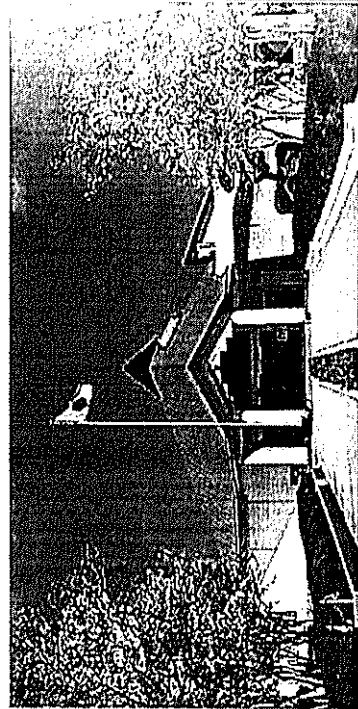


議題（１）

他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例
（説明資料）

知覧特攻平和会館

静かなたたずまいをみせる「知覧武家屋敷群」



「知覧武家屋敷群」を静かなたたずまいをみせる

徳川幕府の天下統一が、
一城を據守させること
にあったため、薩摩藩では
鶴丸城を内城とし、洲内に
一、二の外城を造り、防前
の役割を果たすことにし
たが、その中の一つが知覧
でありました。現在の区別は
十八代知覧領主原保久翁
公の時代に造られたもの
で、今から二三〇年、二五
〇年前のものであります。
一〇余りの庭園と武家屋
敷廻りが広範曲の風景区
域として保存されているこ
ろは、全国的にもまれであ
り、とてもたびたび紹介さ
れています。

薩摩の武士といえば、武骨一辺の田舎武士としてのイメ
ージをもつが、このような一面があったのかと訪れる観光客をおど
ろかせています。武家屋敷群は国の「重要伝統的建造物群保
存地区」に選定され、地区内にある七庭園が「名勝」に指定
されています。また、武家屋敷群との調和のとれた所並みは、
古風で落ち着いたある節かなたずまいをいかもし出し、廻り遊
泳するなど訪れる人びとの心にやすらぎをあたえています。

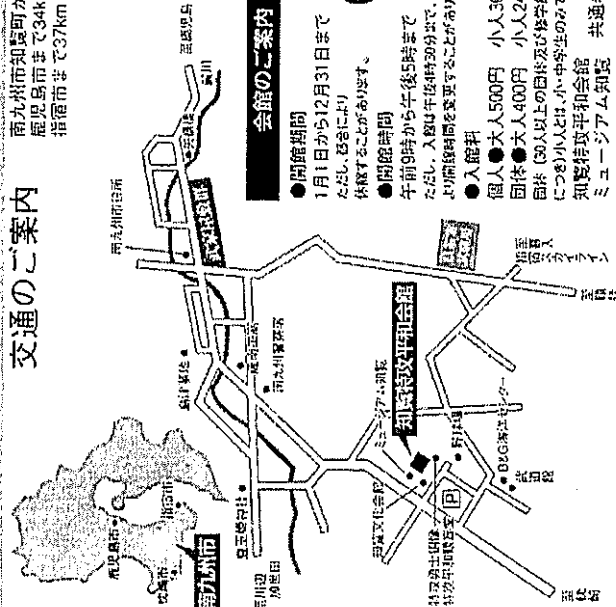
日本
の
文
化
財
産
百
選
第
一
回



日本の道100選顕彰

交通の二案内

南九州市知覧町から
 梶戸島まで34km
 指宿市まで37km



田樂門の鑑賞

- 開館期間
 1月1日から12月31日まで
 ただし、昼間にあり
 休館することがあります。
- 開館時間
 午前9時から午後5時まで
 ただし、入館は午後4時30分まで、夏休み
 及び開館時間を変更することがあります。
- 入館料
 個人 ●大人500円 小人300円
 団体 ●大人400円 小人240円
 につき (30人以上の団体又は修学旅行等1人
 につき) 小人は、小人・共通券のみです。
- 知覚特異平和会館
 ミュージアム知覚 共通券
 個人 ●大人600円 小人400円

知覽特攻平和会館

鹿児島県南九州市知覧町7881
〒897-0302 TEL0993 (83) 2525 FAX0993 (83) 4859
ホムムム http://www.chiran-tokkai.jp/



九州南
鹿兒島市

世界恒久平和を願いながら...

この知覧特攻平和会館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦で、人類史上類のない爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たりした陸軍特別攻撃隊員の遺影、遺品、記録等貴重な資料を収集・保存・展示して当時の真情を後世に正しく伝え世界恒久の平和に寄与するものです。

知覧は、昭和16年、大刀洗陸軍飛行学校知覧分校所が開校、少年飛行兵、学徒出陣の特別操縦見習士官らが操縦訓練を重ねていましたが戦況が緊迫し険悪となり遂に昭和20年本土最南端の陸軍特攻基地となり、20歳前後の若い隊員達が満州・日本内地から集結しては、家族・国の将来を思いながら出撃した地です。

沖縄戦で特攻戦死された1,036名の隊員は、知覧基地を主軸として万世・都城基地から、第8飛行師団は台湾各基地、義烈空挺隊は健軍（熊本）基地から出撃しています。

この地が特攻隊の出撃基地であったことから、沖縄戦の特攻作戦で戦死された隊員の当時の真の姿・遺品・記録を後世に残し、この史実を多くの方々に知っていただき、特攻をとおして戦争のむなしさ、平和の大切さ・ありがたさ、命の尊さを訴え、後世に正しく語り継ぎ恒久の平和を祈念することが基地のあった住民の責務であらうと、特攻基地跡の一角に知覧特攻平和会館（昭和50年から昭和61年は知覧特攻遺品館）を建設しました。



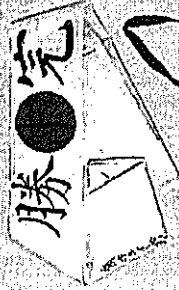
陸軍四式戦闘機「疾風」(1944年)

国を思い、父母を思い、
永遠の平和を願いながら
勇士たちは

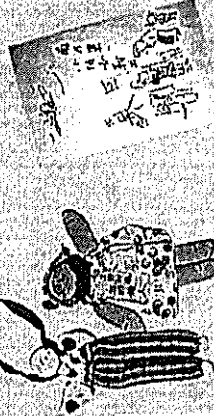


飛行時計

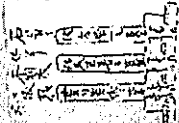
飛行機



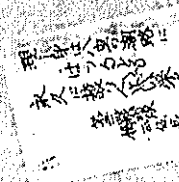
ハチマキ



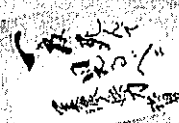
人形



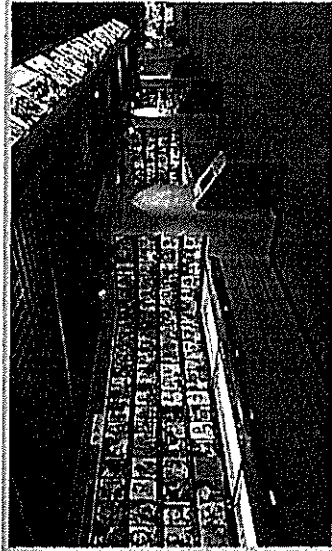
遺品



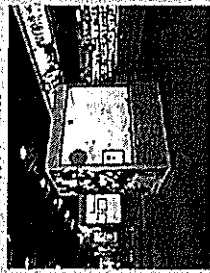
遺品



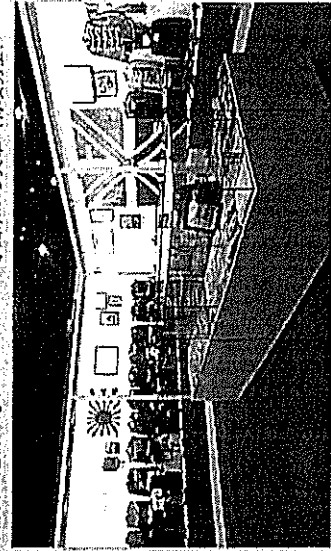
遺品



●古き特攻隊員の遺影コーナー



●隊員の遺影・遺品



●歴史資料室



出撃20分前の顔ごしらえ



出撃前夜（うでずもう）



寄せ書きを置く隊員



出撃前夜、知覧基地に集合した隊員



別れの玉



出撃を見送る女学生

◆知覧特攻平和会館建設に至った経緯や館の目的等について

(1)背景（飛行学校から特攻基地へ）

大東亜戦争（戦後は太平洋戦争ともいう。）が勃発した直後の昭和 16（1941）年福岡の大刀洗陸軍飛行学校の知覧分教所が開校され、静かなたたずまいの城下町は一変して爆音に明け暮れるまちとなった。

その後、戦局は急速に最悪の事態を迎え、昭和 20（1945）年春には、遂に本土最南端の陸軍特攻基地となり、20 歳前後の若い隊員達が、日本各地から集結しては、家族を想い・国の将来を想って、出撃していった。

出撃のとき、特攻隊員の食事の世話・洗濯・繕い物や兵舎の清掃など身の回りの世話をした高等女学校の生徒さんや地元の方々によると、「必死」、必ず死ぬことの分かった特攻隊員を見送るとき、筆舌に尽くしがたい気持ちだったと言う。

(2)目的等（世界恒久平和への取組）

特攻隊員は、若い人で 17 歳、今の高校 2 年生ぐらいの年で、全隊員の平均年齢は 21.6 歳であった。彼らの死を覚悟して過した短い日々の中で書かれた手紙や遺書には、愛する人への愛や感謝の心、思いやりが詰まっており、これらの資料を含めて知覧へ昭和 25 年頃から色々な資料が寄せられるようになる。

このようなことから、旧知覧町及び合併後の南九州市においては、沖縄戦の特攻作戦で戦死された隊員の慰霊に努めるとともに、当時の真の姿を示す、遺品や記録を後世に残すことによって、この史実を多くの方々に知っていただくなど、人類史上類をみない特攻作戦をとおして、戦争のむなしさ、平和の大切さ・ありがたさ、命の尊さを訴え、そして後世に正しく語り継ぎ恒久の平和を祈念することが基地のあった住民の責務であろうとの認識のもと、知覧特攻平和会館（昭和 50（1975）年から昭和 61（1986）年までは、知覧特攻遺品館）を建設するとともに、「平和を語り継ぐ都市」を宣言して平和への決意を示している。

(3)建設の経緯について

日本経済も安定成長期にはいった昭和 40 年代に、少飛会・特操会など特攻関係者から「特攻銅像の建立」と「遺品館」建設の声が続出したことから、全国の特攻関係者や一般有志の方々に募金と呼びかけて浄財による建設を計画し、広く募金活動を展開したが、「特攻銅像」については、知覧特攻慰霊顕彰会により有志による浄財で建立されたものの、「遺品館」については、第一次オイルショックに直面し計画が頓挫した。

しかしながら、昭和 49 年に運動公園の休憩施設として過疎対策事業債を利用して「特攻遺品館」を建設することを決定し、昭和 50 年には完成を見たところである。

その後も全国各地から訪れる人が多くなり、往時の痛ましくも悲しい事実に大きな反響が寄せられ、展示資料も多くなり手狭になってきたことから昭和 60 年から 61 年度までの 2 年間で、起債事業の特別対策事業を活用して、名称も現在の知覧特攻平和会館と改称し、現在の場所に建設した。

◆館の運営について

(1) 入館数の実績

◆別紙のとおり

◆入館料

個人 大人500円 小人300円

団体 大人400円 小人240円

団体（30人以上の団体及び修学旅行等1人につき）

◇ミュージアム知覧との共通券

個人 大人600円 小人400円

(2) 運営形態

☆職員数と職員の身分について

南九州市（知覧特攻平和会館）

館長兼室長 1人

管理係長 1人

管理係 1人

世界記憶遺産推進係長 1人

世界記憶遺産推進係 1人

知覧特攻平和会館管理組合

業務委託（館内案内業務及びクーポン請求）

理事会（組合長・副組合長・理事6人・顧問1人）

監事（2人）

事務局（12人）

事務局長 1人（市職員兼）

事務局職員 4人（市職員兼）

館内案内人 5人（参事）

専門員 1人

庶務係 1人（主事）

○窓口受付業務（受付，入館券販売，遺失物保管等） 1人～2人常駐（民間委託）

○音声ガイド機貸出 1人（管理組合が雇用；数名で交代勤務）

○休日案内補助 1人（シルバー委託；2名で交代勤務）

○平日事務補助 1人（非常勤嘱託）

5. 展示・解説等

(1) ありのままの事実の展示と解説について

昭和 16(1941)年福岡の大刀洗陸軍飛行学校の知覧分教所が開校され、静かなたたずまいの城下町は一変して爆音に明け暮れるまちとなった。その後戦局は急速に最悪の事態を迎え、昭和 20(1945)年春には、本土最南端の陸軍特攻基地となった。20 歳前後の若い隊員達が、日本各地から集結しては、家族を想い・国の将来を想って、出撃していった。出撃のとき、特攻隊員の食事の世話・洗濯・繕い物や兵舎の清掃など身の回りの世話をした高等女学校の生徒さんや地元の方々が、「必死」、必ず死ぬことの分かった特攻隊員を見送るとき、筆舌に尽くしがたい気持ちだったと言う。

もう二度とこのような悲惨な体験はしたくないと、この地が特攻隊の出撃基地であったことから、沖縄戦の特攻作戦で戦死された隊員の慰霊に努め、当時の真の姿・遺品・記録を後世に残し、この史実を多くの方に知っていただき、特攻をとおして戦争のむなしさ、平和の大切さ・ありがたさ、命の尊さを訴え、そして後世に正しく語り継ぎ恒久の平和を祈念することが基地のあった住民の責務であろうと、知覧特攻平和会館（昭和 50(1975)年から昭和 61(1986)年までは、知覧特攻遺品館）を建設するとともに、「平和を語り継ぐ都市」を宣言して平和への決意を示している。

また、隣接する知覧特攻平和観音堂では、昭和 30(1955)年から毎年、知覧特攻基地戦没者慰霊祭が厳粛に挙行されている。

知覧特攻平和会館での平和学習は、館内案内人（語り部）による講話及び特攻隊員たちの遺書・手紙などの閲覧を通じ、平和の大切さ・ありがたさ、命の尊さを学習することができる。当時の様子を知る方を中心に、5人の館内案内人が特攻の歴史背景と特攻隊員の遺書・手紙等の特色について約 30 分間解説をしている。

講話以外の学習としては、遺品室における特攻隊員の遺影、遺書、手紙などの閲覧、当時使用された戦闘機（一式戦闘機「隼」（模型）、四式戦闘機「疾風」と海から引き揚げた零式艦上戦闘機「零戦」（実物））等の実物資料の見学、特攻隊員検索システム（陸・海軍特攻戦死者を検索できる）4台では、隊員の出身や氏名の検索、歴史が生んだ特攻のことや特攻を支えた人々のことを学習できる。特攻資料解説システム（日本語・英語）5台では、約 250 点の遺書・手紙、遺詠、絶筆や遺筆を現代語と並列して学習できる。タブレット型音声ガイドシステム（日本語・英語・中国語・韓国語、約 50 分〔有料 200 円／台〕）100 台では、34 項目の隊員のエピソードや当時の戦闘機等の説明が聴ける。さらに隣接して建てられている三角兵舎（復元）の見学、知覧特攻平和観音堂の参拝（平和セレモニーも行うことができる。）もできる。このように、本物（真実）を展示し当時のありのままを来館者に訴えている。

議題（１）

他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例
（説明資料）

昭和館 姫路市平和資料館



昭和館

(1/3)

1. 基本情報

設立主体	国(厚生労働省)
運営者	一般財団法人日本遺族会
所在地	東京都千代田区九段南1-6-1
開館年月	平成11年3月27日
開館時間	午前10時～午後5時30分(入館は5時まで)
休館日	毎週月曜日、年末年始
入館料	一般:300円 / 高大学生:150円 / 中学生以下:無料

2. 設置理念等

《設置理念》

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

《基本的な性格及び事業》

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館(仮称)」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

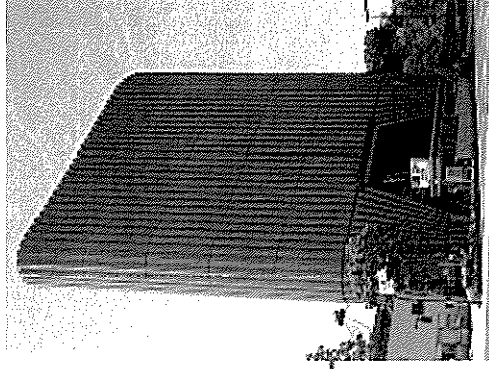
これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに「戦没者遺児記念館(仮称)」建設の検討が進められた。

平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館(仮称)」として厚生省(当時)予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

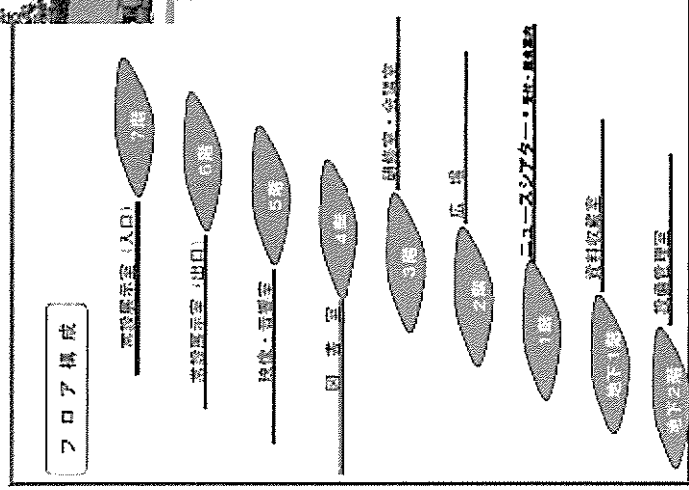
なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

3. 建築概要

規模	敷地面積:2,138㎡/建築面積:1,288㎡/延床面積:8,514㎡ 常設展示室:1,587㎡
構造	鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造 地上8階、地下2階建て
主要諸室	常設展示室、映像・音響室、図書室、書庫、研修室・会議室 広場、資料公開コーナー、エントランスロビー 等



施設外観



フロア構成図



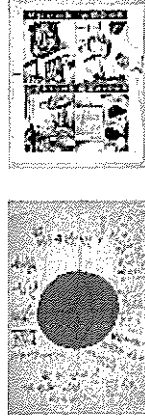
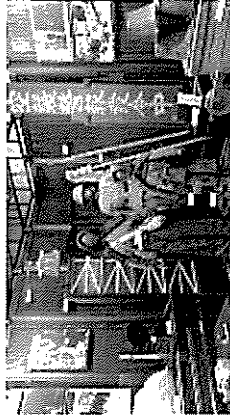
昭和館 (2/3)

4. 常設展示概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるための展示を行っている。7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中のくらしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後のくらしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

① 戦前から戦中の国民の暮らし

1. 家族の別れ
2. 家族への想い
3. 昭和10年頃の仮定
4. 統制下の暮らし
5. 戦中の学童・学徒
6. 戦後の備えと空襲
7. 和男君の防空探検
8. 空襲の備え
9. 昭和20年8月15日



② 戦後の国民の暮らし

1. 終戦直後の日本
2. 廃墟からの出発
3. 遭された家族
4. 子どもたちの戦後
5. 復興に向けて
6. 移りゆく世相 昭和10年～40年
7. 慰霊の旅
8. 体験ひろば
9. 昭和館ギャラリー



5. 企画展示、その他主な教育普及活動

① 特別企画展等の開催

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

《平成27年実施例》

「昭和20年という年～空襲、終戦、そして復興～」

戦後70年となった本年、激動の昭和20年を1月～8月8月15日前後、9月～12月の3つの時期に分け、国内の様子を実物資料の展示を中心に紹介。

② 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

③ 貸出キット

全国の各市町村教育委員会や都道府県道徳協会事務局のほか、「昭和館だより」の発行に併せて全国約16,000の小・中学校、高等学校にポスターとチラシを送付するなど広報に努め、更なる利用を呼びかけた。

④ 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上映会を、紙芝居師の森下昌毅氏ほかの演者により実施した。

⑤ 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教職員を対象とした博物館体験の日を実施した。





昭和館 (3/3)

6. 展示手法の特色

A 膨大な実物資料の組合せにより、

来館者に当時の生活を想像していただく展示手法

昭和館の展示の特色は、数多くの実物資料を並べること由来館者自身が戦中、戦後の人々の暮らしについて想像していただく、という点にある。

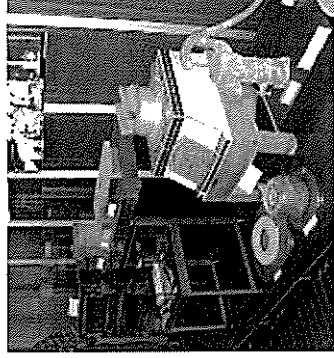
昭和館は現在約43,500点もの実物資料を所蔵しており、そのうち約700点を常設展示で公開している。シンブルな展示什器とすることで、資料の入れ替えを簡易に行えるようになっている。



実物や解説パネルが自在に展示できる什器システム



マネキンを活用したもの



実物資料展示

B 当時の生活の一端を体験できる展示手法

当時の生活を「見る」だけでなく、触ったり、動かしたりすることで実感をもって理解してもらうためのコーナー。「米つき」や「ポンプ」による水汲み、「バケツ」による水運び」等、当時の生活の苦勞の一端を感じられるアイテムを設置している。
その他にも、当時の生活道具を実際に手に取って触ったり、衣服を着てみることでできる体験等も設置している。



米つき体験



ポンプ体験



防空頭巾体験



水運び体験

C 終戦直後の東京を視覚的に体験できる展示手法

常設展示室がある7階のエレベーターホールにおいて、戦後の焼け野原の状態をトリックアートの手法で再現。国会議事堂周辺が終戦直後、どのような状態だったのかを視覚的に訴える。



トリックアートコーナー



トリックアートコーナー



姫路市平和資料館 (1/3)

1. 基本情報

設立主体	姫路市
運営者	姫路市
所在地	姫路市西延末475番地(手柄山中央公園山上)
開館年月	平成8年4月26日
開館時間	午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日	毎週月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始
入館料	一般:200円 / 小中学生:50円

2. 設置理念等

《設置理念》

姫路市では、太平洋戦争で亡くなった一般市民を慰霊すると共に平和都市宣言・非核平和都市宣言を行い、平和施策を推進している。

戦後70年という年月の経過により、戦争体験が風化し、人々の記憶から悲惨な戦争と戦災体験が消えつつある。現在そして未来の平和は、過去の戦争とそれに伴う悲惨な事実に対する正しい理解と認識並びに全世界の人々との相互信頼のうえに成り立つものであり、歴史的事実を伝え続けることは、平和を維持していくために極めて重要である。このようなことから戦争の惨禍と平和の尊さを後世に伝え、平和な社会の発展に寄与するため、空襲に視点を置いた資料館を設置した。

《基本的な性格及び事業》

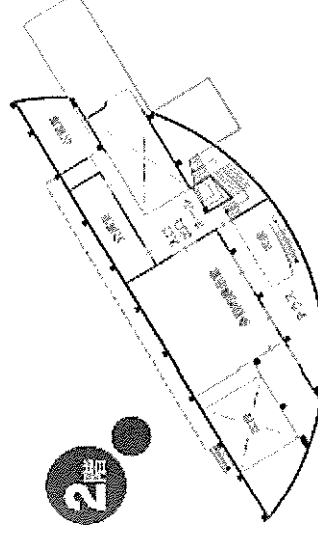
- (1) 空襲体験継承の場として
姫路の空襲による被災等に関する資料、文書、映像等を主体とした展示をする。
- (2) 平和に関する学習・教育の場として
平和教育の場としてこの施設の活用を図ると共に、戦争の悲惨さと平和の尊さについて啓発する施設とする。
- (3) 調査研究機能の場として
展示資料収集や平和学習指導などを充実させるための調査・研究機能を整備する。

3. 建築概要

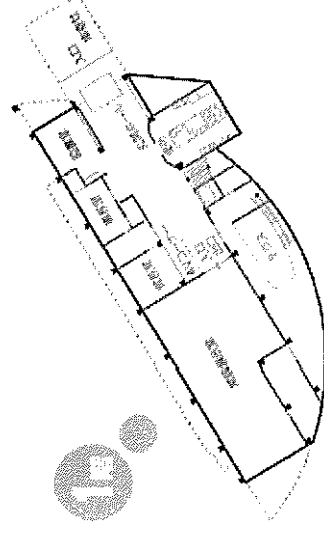
規模	敷地面積:1,716㎡/建築面積:818.4㎡/延床面積:1,139㎡
構造	常設展示室:224㎡/多目的ホール:180㎡
主要諸室	鉄筋コンクリート造 地上2階建て 1階:常設展示室、図書室、AVコーナー、事務室 等 2階:多目的展示室、会議室、収蔵庫、倉庫 等



建物外観



2階



1階



姫路市平和資料館 (2/3)

4. 常設展示概要

姫路というまちの明治維新後のあゆみを導入部に据えながら、太平洋戦争へと巻き込まれ、戦禍に見舞われたのち、復興を遂げていくという時系列でのストーリーを展開している。特に、姫路のシンボルである姫路城を展示の軸としながら、市民生活という視点で戦時下、復興の出来事を紹介している。

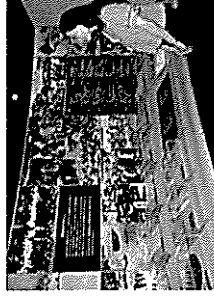
① 美しい城下町、姫路

明治維新から満州事変以前、姫路は近代都市への第一歩を踏み出した。御幸通りの完成や鉄道の開通など、文明開化から近代へ躍進する姫路、その当時の活気に満ちた市民生活や街の様子を写真パネルで紹介する。



② 覆われた姫路城

日本全体が戦時体制に入り、迷彩のため姫路城に黒い網をかけるなど、姫路の街に戦争の影響が見られるようになった。その当時の街の様子や市民生活を立体模型のジオラマやパネルで紹介する。



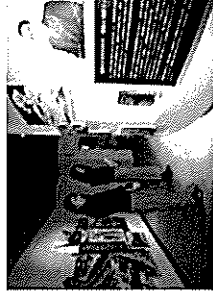
③ 炎の中の姫路城

姫路は昭和20年6月22日と7月3日深夜から4日早朝にかけて二度の空襲に見舞われ、大きな被害を受けた。ここでは当時の民家、防空壕復元のほか、映像・音響・振動・ジオラマで空襲を再現した疑似体験装置で空襲の恐ろしさを体験できる。



④ よみがえる姫路城

昭和20年8月15日終戦。大空襲による被害を乗り越え、歩み出した姫路市民の復興への軌跡を追う。また、広島・長崎原爆投下直後、被爆者の治療、調査に力を注いだ都築正男医学博士の業績を紹介する。姫路市最初の名誉市民である都築博士は被爆者の治療のほか、原爆禁止国際会議に出席するなど原爆症の権威者として国際的に活躍した。



⑤ 平和を祈って

太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔の模型を展示し、平和への祈りを込める。また、姫路の子供たちが描いた非核平和をうたえる絵画を展示している。

5. 企画展活動

(1) 春季企画展の開催

平成8年4月26日の開館を記念し、春季企画展を開催

(2) 非核平和展の開催

姫路市の非核平和都市宣言の趣旨を市民に広くアピールし、平和について考える機会の提供の場として非核平和展を開催

(3) 秋季企画展の開催

毎年10月26日、「太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式」が開催されることに伴い、その日を中心に秋季企画展を開催

(4) 収蔵品展の開催

毎年、寄贈を受けた戦災資料を中心に収蔵品展を開催

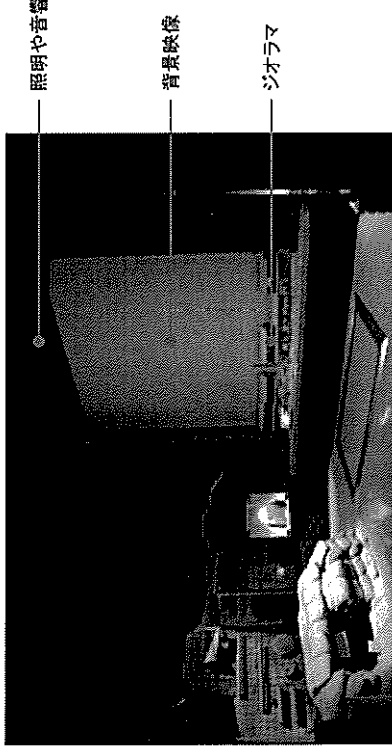


姫路市平和資料館 (3/3)

6. 展示手法の特色

A ジオラマと映像、音響、照明の複合的演出により、空襲の恐ろしさを表現する展示手法

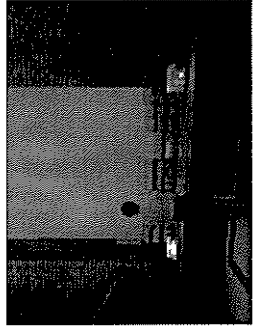
姫路市平和資料館では、戦争の悲惨さ、空襲の恐ろしさを体験していかない世代に伝えていくことに重点を置き、より分かりやすい表現手法を取り入れている。メインとなる空襲の展示においては、空襲から逃げる人々を表したジオラマを中心に背景となる映像、そして空襲警報やサイレン等の音響や照明等を含わせ、複合的な演出を用いて、その恐ろしさを表現している。



ジオラマを中心とした複合展示演出の全景



空襲の状況に併せて動くジオラマ



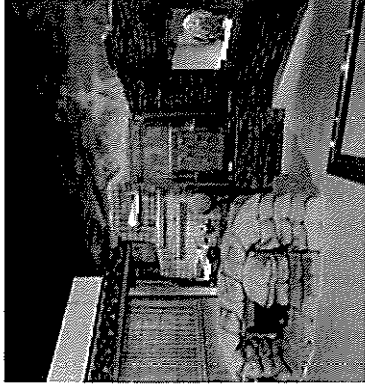
背景の映像が変化

B 実物大の情景再現展示により、

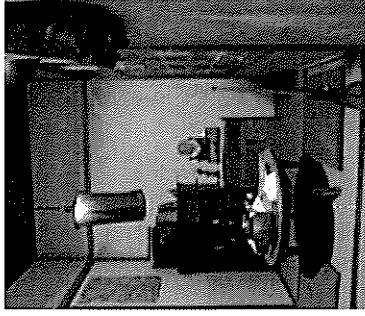
戦時下の姫路を疑似体験できる展示手法

姫路市平和資料館では、より臨場感をもって戦時下の姫路の様子を体験していただく為に一部の展示において、実物大の空間をそのまま再現した情景再現という展示手法を取り入れている。

戦時下の姫路の暮らしの1シーンとして防空壕を中心とした屋外の再現や当時の暮らしを表現した屋内の再現を行っている。



防空壕等の屋外再現



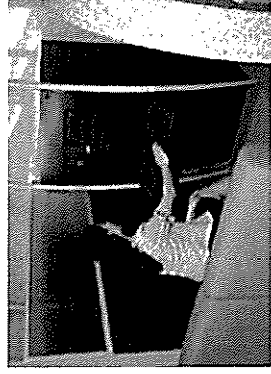
暮らしぶりを表現した民家再現

C 来館者が平和を考える展示コーナー・ビデオコーナー

姫路の子どもたちが描いた絵画の展示やビデオコーナーの設置、戦争を知らない世代へ受け継ぐ場として、また、かけがえのない平和の尊さを学ぶ場として活用されている。



絵画コーナー



ビデオコーナー



議題（２）

（説明資料）

北九州市の戦前の歴史

北九州市の戦前の歴史 (北九州地域の近代史)

2017. 1. 18
北九州市

戦争と北九州の記憶

- 北九州地域は関門海峡の九州側かつ東アジア各国とも近い地理的な重要性から、古くより係争の舞台となった。例) 藤原広嗣の乱、壇ノ浦の合戦、門司城合戦、第二次長州征伐.....。

小倉戦争

- 慶応2年（1866）年、小倉戦争に敗れ藩は城を自焼、市街地は荒廃した。（丙寅八月二日小倉落城遠望之図）

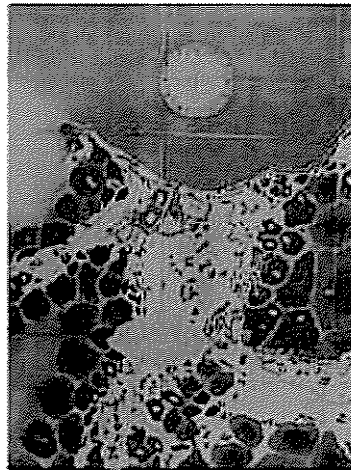


地域の近現代と国防との関わり

- 下関要塞地帯と十二師団設置
...幕末期の内戦で荒廃した北九州地域は、その地理的重要性から要塞地帯に指定、陸軍師団が配置された。
- 小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲
...大正期の軍縮政策で、師団は久留米に移転、跡地は軍需工場が誘致された。地域は重要拠点が多く、空襲被害を何度も受け、原子爆弾投下候補地となった。
- 戦後の北九州と平和の取り組み
...戦後八幡・門司・若松の三市が戦災復興都市に指定。学校等では様々な平和の取り組みを進めている。

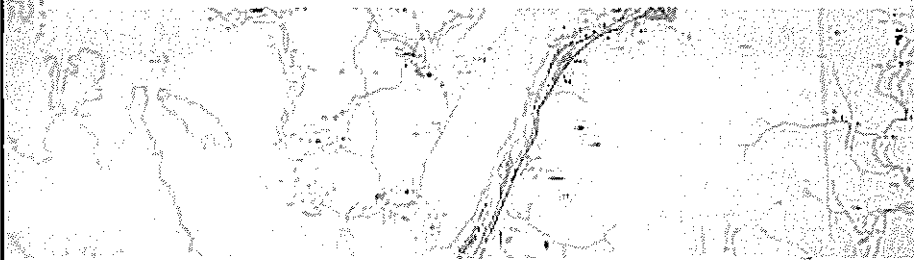
下関要塞地帯と十二師団設置 (西海道鎮台)

- ▶ 明治維新時、小倉の地は長州藩の直轄地。
→ 明治2年に日田県（政府直轄地……この頃まだ他地域は藩として独立）、明治4年廃藩置県により、小倉県として独立。
- ▶ 廃藩置県まで軍事拠点である鎮台が設置。



下関要塞地帯と十二師団設置 (下関要塞地帯)

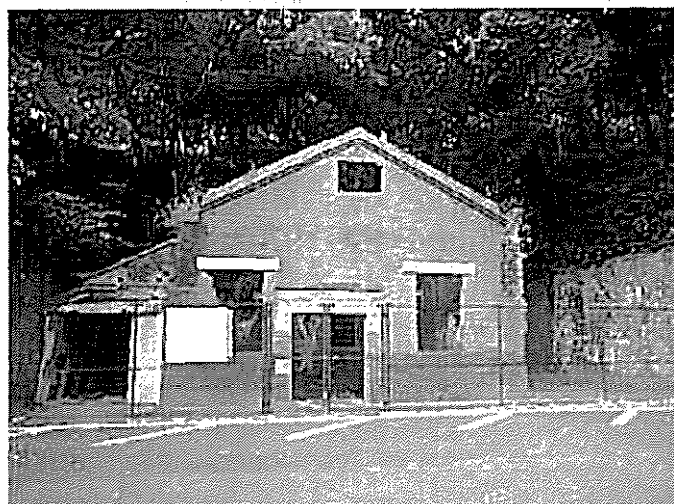
- 1886年、陸軍省は臨時砲台建築部を置く。
→ 1899年要塞地帯法制定。
- 交通の要衝である関門地区の交通の安全確保、また外国艦隊からの防衛対策で各地域に砲台・堡塁などの要塞を構築。



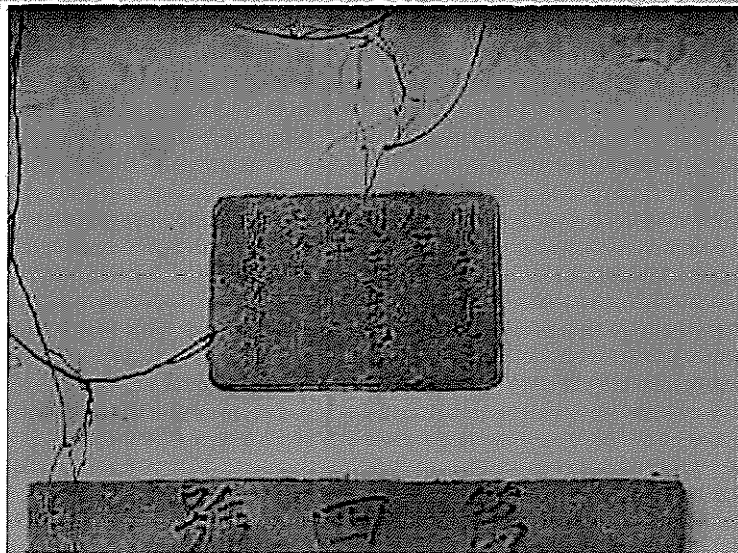
下関要塞地帯と十二師団設置
(下関要塞地帯・高蔵山堡壘)



下関要塞地帯と十二師団設置
(下関要塞地帯・手向山砲台)



下関要塞地帯と十二師団設置
(下関要塞地帯・手向山砲台)

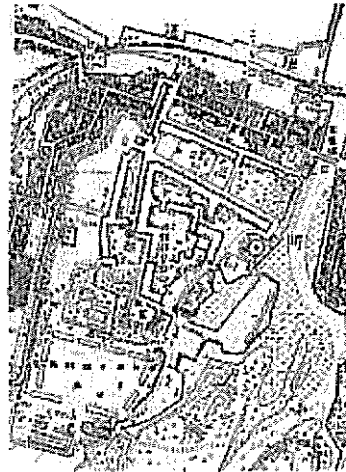


下関要塞地帯と十二師団設置
(下関要塞地帯・手向山砲台)



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団の小倉設置)

- 1898年、小倉（小倉城址及び城野・北方の自衛隊基地に相当）に本拠を置く。
- 第一次世界大戦後の軍縮に伴い1925年久留米に移転されるまで、市街中心部（旧小倉城）に所在。



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団の小倉設置)

- 森鷗外.....1899年十二師団に赴任。福岡日日新聞に投稿した「我をして九州の富人たらしめば」は、炭鉱主の散財を戒めたものとして知られる。



下関要塞地帯と十二師団設置
(十二師団・森鷗外旧居)



下関要塞地帯と十二師団設置
(十二師団・旧小倉城)



下関要塞地帯と十二師団設置
(十二師団・軍馬忠霊碑)



下関要塞地帯と十二師団設置
(十二師団・軍馬水飲み場跡)

• 港町・門司からは日清・日露期以降、多くの軍馬が兵士とともに出征。門司にあった水飲み場を移設保存するとともに、小倉には慰霊碑が造られる。



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団・北方の資料館)

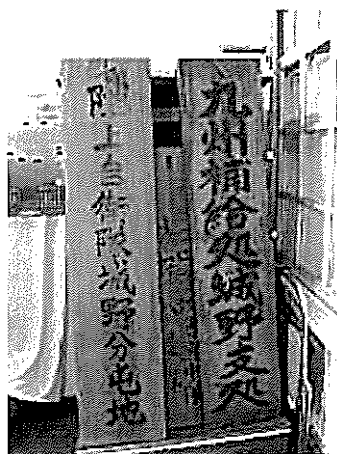


下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団と地域との関わり)

- 「湖月堂」の名の由来...1901年に十二師団井上光中將が源氏物語の注釈書である「湖月抄」から命名。



下関要塞地帯と十二師団設置
(十二師団・城野にあった施設)

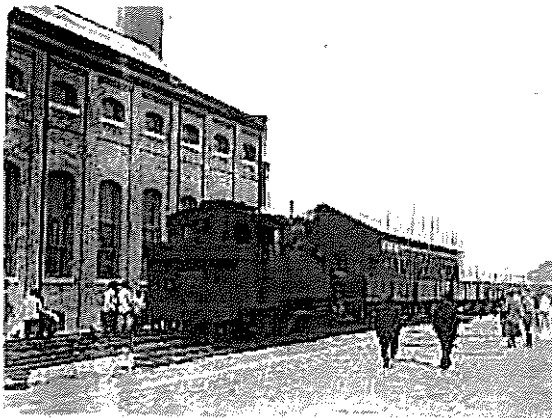


小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲
(北九州における産業施設の集中)



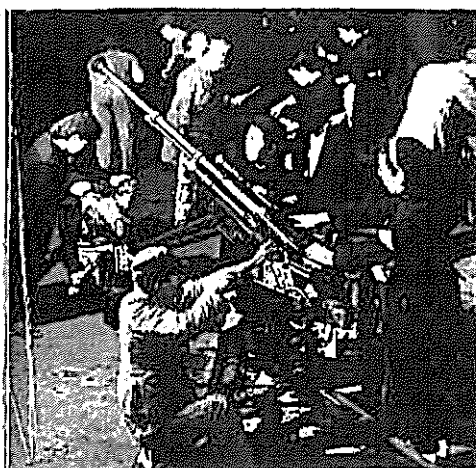
小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (小倉陸軍造兵廠)

- 小倉市は、十二師団拠点跡地に関東大震災で被害を受けた陸軍造兵廠の誘致を行った。1932年から移転作業が始まる。

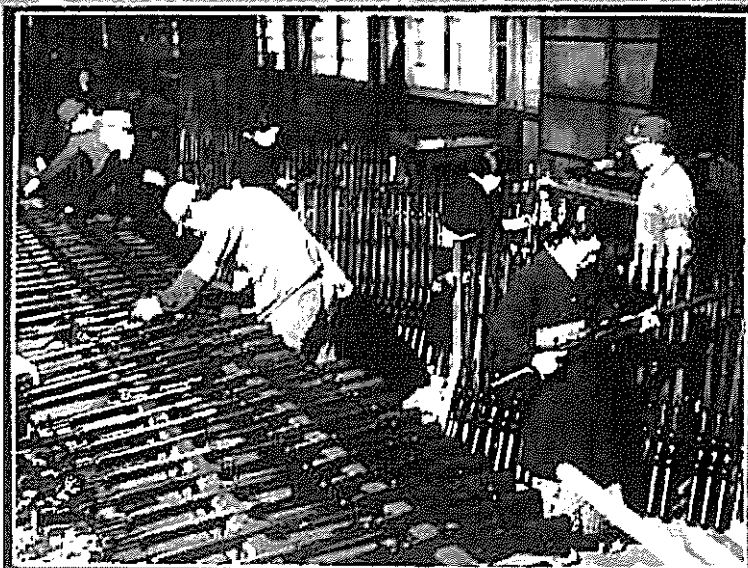


小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (小倉陸軍造兵廠の誘致)

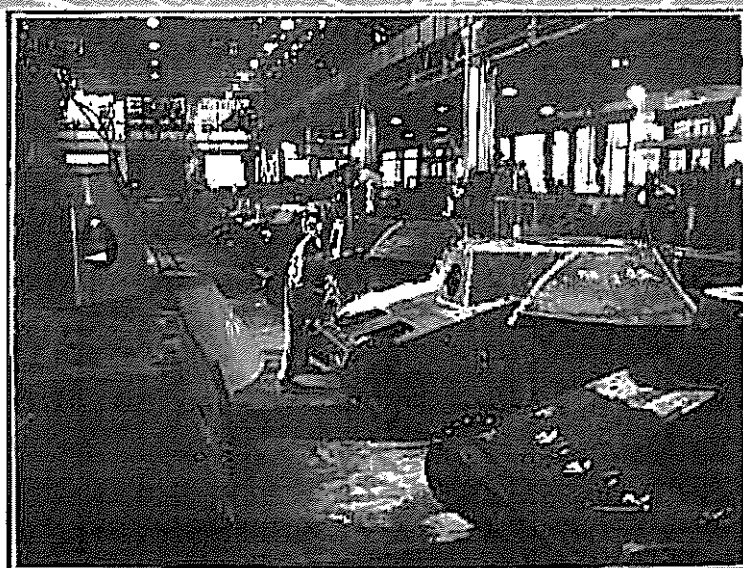
- 小倉城そばの約58haに及ぶ敷地に戦車や高射砲の工場、そして数100mに及ぶ地下道などが建設された。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠・旧防空監視哨)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠・給水塔の遺構)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠・造兵廠跡石碑)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠・曾根毒瓦斯工場)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
（若松・石峰山高射砲陣地施設か）



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
（小倉・旧かねやす百貨店屋上）

- 防空監視哨... 目視により空襲を察知する目的で、比較的高さのある建物に設置。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (八幡製鐵所)

□ 製鐵所の八幡誘致

国内候補地.....災害が少なく、地盤が堅固で原材料が豊富にあるところが候補に。

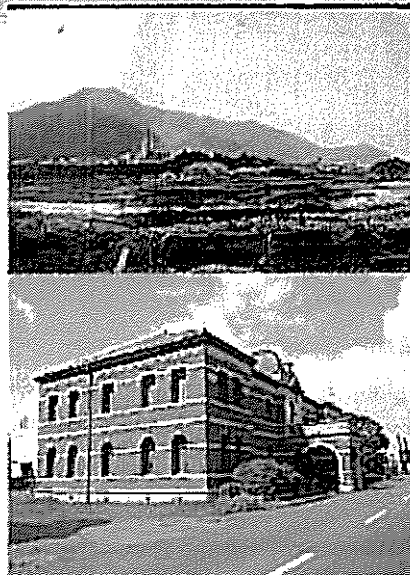
坂（広島）、柳ヶ浦（北九州門司）、八幡

→1897（明治30）年、筑豊炭田を控え、整備され（つつある）若松港を持つ八幡が選ばれ、1901年に作業開始。

小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (八幡製鐵所)

□ 八幡製鐵所の拡張と都市形成

- ・ 製鐵所の生産拡大に応じて、数度拡張が行われ、社宅街と製鐵所入り口近くに商店街が形成、周辺が市街地化。
（初代本事務所をはじめとする関連施設群が2015年UNESCO世界文化遺産に登録）



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (門司と八幡の空襲)

- 北九州市の空襲（1944.6.16）... 日本初の本土空襲。北九州全域が被害を受ける。
- 門司大空襲（1945.6.29）... 多くの死傷者がでるとともに、日本銀行西部支店等、近代建築の多くが焼が



門司港・錦町から港町方向

小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (門司と八幡の空襲)

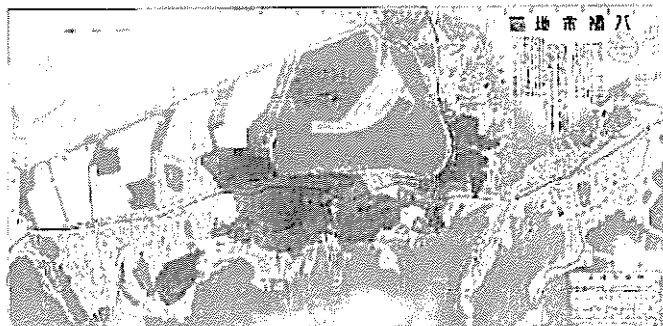
- 関門海峡は度重なる爆撃とともに1945年3月より順次機雷で封鎖された。
- 艦船に多くの被害→港湾施設の接収とともに戦後復興にも大きく影を落とす。



下関・細江町付近

小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(門司と八幡の空襲)

- 八幡大空襲（1945.8.8）...小伊藤山の防空壕では約300人の市民が犠牲に。これまでの空襲から累計して60%の市街地が焼失、死傷者は約2500人にのぼる。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲
(門司と八幡の空襲)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(門司と八幡の空襲)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(北九州市の空襲被害)

年月日	都市	死者	傷者	全焼家屋	半焼家屋	全壊瓦屋	半壊瓦屋	被災者
昭和19年6月16日 大日本初の 本土空襲	門司	33	25			25	104	426
	小倉	94	126			28	246	
	戸畑	52	41			22	55	378
	若葉	6	20		4			
	八幡	129	132	102			125	928
小計		314	366	102	4	125	324	1,732
昭和19年7月6日	八幡			2			4	24
昭和19年8月20日	小倉	8	2	1	2			
	戸畑	29	48			13	50	306
	八幡	136	224	125			545	2,886
小計		163	268	126	2	13	599	2,996
昭和20年3月5日	門司	3	9			1		
昭和20年3月27日	門司			67	8			325
	小倉	14	8	8	4	1		
小計		14	8	75	12	1	0	425

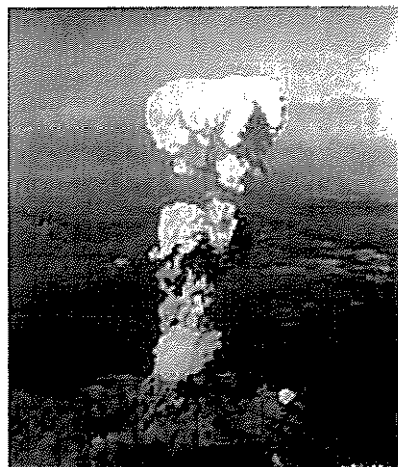
小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (北九州市の空襲被害)

年月日	施設	死者	傷者	全焼家数	半焼家数	全壊家数	半壊家数	被災者
昭和10年11月7日	門司			67	0			525
	小倉	14	0	0	0	1		
小計		14	0	75	0	1	0	525
昭和10年11月1日	門司	14	45			27	145	152
昭和10年11月17日	門司		3			1	202	50
昭和10年11月16日	月松				1			
昭和10年11月10日	門司	23	02	2615	03			36107
昭和10年7月2日	門司		25	94	27			000
昭和10年7月16日	門司		2				0	
昭和10年7月21日	門司	4	7			3	6	33
昭和10年8月1日	小倉	1	7	11	3			
	戸田	27	17			310	12	1500
	高松	25	120		1,174			45000
	八幡	1,225	617	1,5236			03	63476
小計		1675	754	1,5302	1,370	316	110	99710
合計		2,052	1,511	17,377	1,370	317	150	61,737

北九州市空襲地図(昭和)

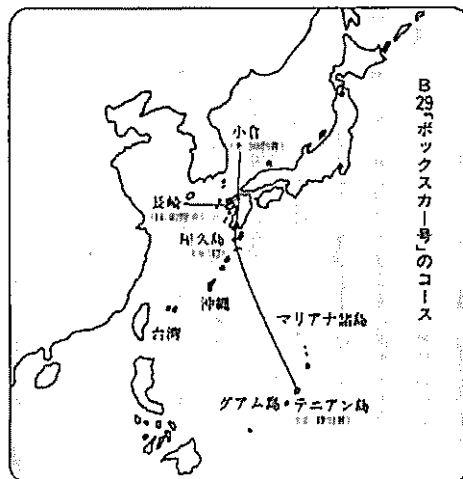
小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲 (原子爆弾投下目標地・小倉)

- 1945年5月時点における原子爆弾の投下候補地は、京都・広島・横浜・小倉・新潟など。
- 小倉地域は近隣に起伏の大きな地形がなく、これまでの空襲被害も少なかったことから、原子爆弾投下目標地としての最終候補となる。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(原子爆弾投下目標地・小倉)

□ 1945年8月9日にマリアナ諸島から出発したB29は、午前9時頃に小倉に到着。視界不良のため三度巡回するも、投下できず、第二候補地の長崎に向かう。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(原子爆弾投下目標地・小倉)

□ 原子爆弾が小倉陸軍造兵廠敷地に投下された場合、直接の死者は5万7000人、2万戸以上の家屋が全焼し、隣接する八幡や戸畑にも大きな被害が及んだと想定されている。



小倉の被害状況シミュレーション(「小倉に原爆が落ちた日」より)

戦後の北九州
（平和復興祈念像）

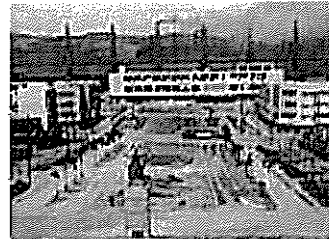


戦後の北九州
（「復興平和記念」の碑文）



戦後の北九州 (戦後復興)

- 300名以上の犠牲者を出した小伊藤山防空壕跡には、ロータリーを中心とした戦後復興計画に基づいた街路整備がなされ、記念碑が建てられた。
- 1946年に公布された特別都市計画法に基づき、門司市・八幡市・若松市が戦災復興都市に指定。



八幡駅前・舊本町

戦後の北九州 (戦後復興)

- 戦後傾斜生産政策に基づき、北九州五市の復興が急速に行われる。
- 米軍による接収などもあり、建物が不足する中で、焼け残った多くの施設が様々な用途に転用された。



門司港・鎮西橋付近

戦後の北九州

(若松・軍艦防波堤(駆逐艦「柳」))

- 「軍艦防波堤」
戦後復興期の資材不足の中で、かつて駆逐艦として使用されていた「涼月」「冬月」「柳」の3隻を若松港の防波堤に転用。現在は周辺埋立によって響灘人工島と陸続きに。

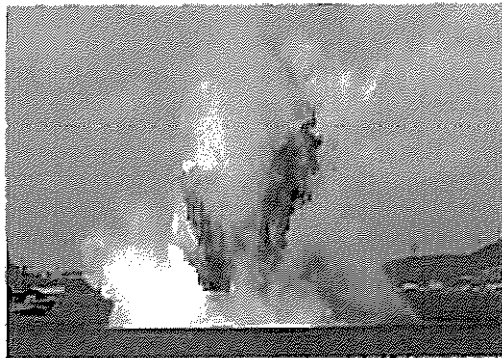


若松・響灘人工島

戦後の北九州

(関門海峡機雷撤去)

- 関門海峡に投下された機雷は、21世紀の現在においても時折発見され、逐次爆破除去が行われている。
- 門司の西海岸地区は戦後米軍の接收を受け、1・2号岸壁の接收解除は1972（昭和47）年であった。



戦後の北九州 (米軍施設の返還)

- 旧門司税関
一号上屋...米
軍接收施設、
1972年返還。



平和の取り組み

- 家族史としての
8月9日...
いなかったか
もしれない自分。



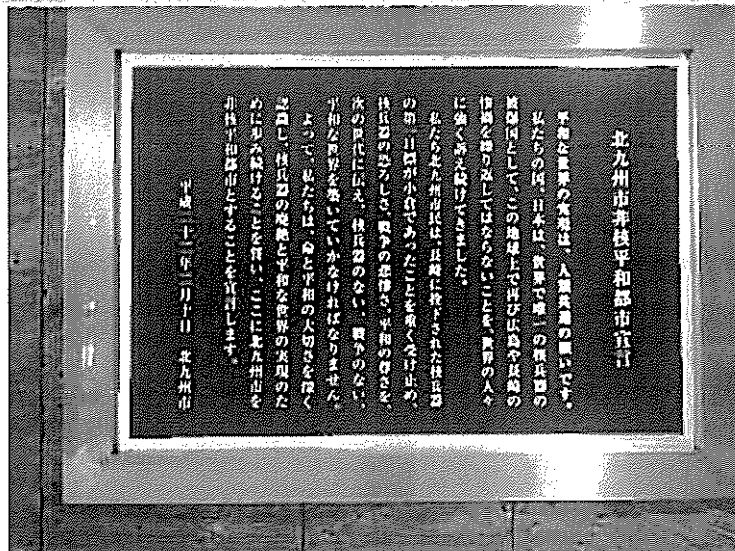
自 宅 茶 町

平和の取り組み



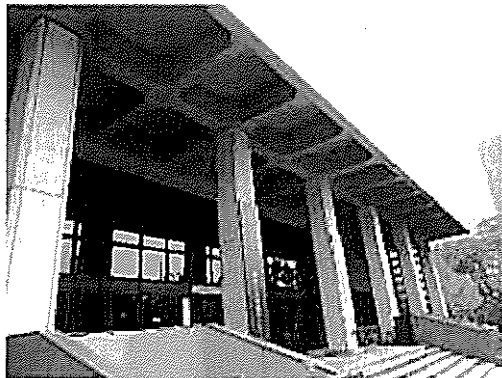
平和の取り組み

(北九州市非核平和都市宣言)



平和の取り組み （戦時資料展示コーナー）

- 現在の小倉には、埋蔵文化財センター（旧考古博物館）に併設して戦時資料展示コーナーが設置されている。



平和の取り組み （原爆犠牲者慰霊平和祈念碑）



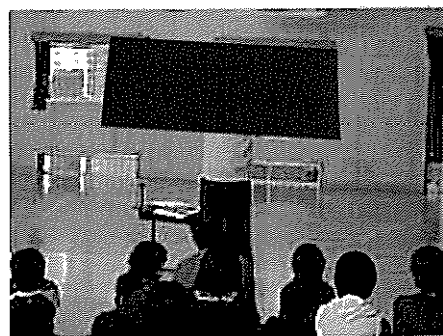
平和の取り組み （「嘉代子桜・親子桜」の植樹）

- 平和の願いが込められた「嘉代子桜・親子桜」の植樹。
- 市立小学校、勝山公園等に植樹。
- 市立中学校にも植樹（平成28年度完了予定）。



平和の取り組み （長崎市平和派遣事業）

- 親子で平和を考えるきっかけとするため、8月9日に、親子300人を長崎市へ派遣。
- 平和祈念式典への参列、原爆資料館や「嘉代子桜」の緑のある城山小学校を見学。



▲ 城山小学校での被爆体験講話

平和の取り組み

(青少年ピースフォーラム派遣事業)

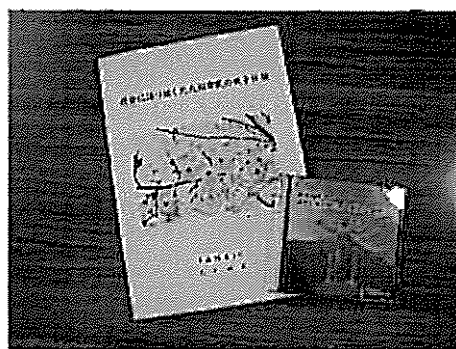
- 長崎へ投下された原爆被害の実情や平和の尊さを学ぶため長崎市が開催する「青少年ピースフォーラム」に本市小中高校生（約20人）を派遣。
- 平和祈念式典への参列や他都市の参加者との意見交換。



平和の取り組み

(後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験の発行等)

- 市民から寄せられた戦争体験談をまとめた冊子及び市民が体験を語るDVDを作成。
- 冊子は無料で配布、DVDは市民センター等で貸出。



平和の取り組み (平和に関する学習指導)

- 小中学校での年間を通じた活動
7月を「平和に関する学習指導月間」と位置付け、
全市で重点化を図る。

(指導の例)

- 国語、社会科における教育課程に基づく指導
 - ・ 戦争を題材にした文学作品を読む
 - ・ 戦争に関する資料を集めたり、調べる 等
- 指導月間での指導
 - ・ 外部講師を招いての講話
 - ・ DVD等の視聴
 - ・ 折鶴製作 等



議題（３）

（説明資料）

（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所（案）

議題（３）

（仮称）平和資料館のコンセプト・設置場所（案）

本市では戦争の悲惨さや平和の大切さを市民に伝えるため、「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」や「北九州市非核平和都市宣言」の実施、「戦時資料展示コーナー」における戦時下の暮らしを中心とした資料の展示等、様々な取り組みを進めてきた。

戦後71年が経過し、戦争の記憶の風化が懸念されており、本市に関係する戦争の記憶を後世に伝えることが大きな課題となっている。

そのため、戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなるよう、新たに（仮称）平和資料館を建設するもの。

なお、下記のコンセプト等は懇話会の活発な議論のため、例示している。

1（仮称）平和資料館のコンセプト

○北九州市における戦争の悲惨さを保存・継承する施設

○平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなる施設

2（仮称）平和資料館の主な展示内容

（１）八幡大空襲を始めとする本市の空襲に関する資料

（２）長崎の原爆に関する資料

（３）戦後の復興に向けた市民生活に関する資料

（４）米国国立公文書館から収集した資料

※現在のコーナーに加える主な資料

3（仮称）平和資料館の建設候補地

小倉北区：勝山公園の一角（関連事項・小倉造兵廠、長崎原爆の投下予定地）

他に市議会より八幡東区、門司区「めかり山荘跡地」の意見もでている。